65歳以上の人へ

帯状疱疹ワクチン

が令和７年度から国の**定期接種**になりました

令和８年度定期接種の対象者

65歳	昭和36年4月2日生～ 昭和37年4月1日生の人	70歳	昭和31年4月2日生～ 昭和32年4月1日生の人
75歳	昭和26年4月2日生～ 昭和27年4月1日生の人	80歳	昭和21年4月2日生～ 昭和22年4月1日生の人
85歳	昭和16年4月2日生～ 昭和17年4月１日生の人	90歳	昭和11年4月2日生～ 昭和12年4月1日生の人
95歳	昭和6年4月2日生～ 昭和7年4月1日生の人	100歳	大正15年4月2日生～ 昭和2年4月1日生の人

60~64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人も接種が可能です。
かかりつけ医師にご相談ください。

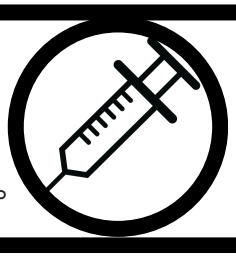
注意

定期接種による公費負担を受けられる機会は**生涯に一度**だけ。
例えば、65歳で一度対象者になった人が定期接種を受けず5年後に70歳になっても定期接種の機会はありません。

接種期間

令和　9年　3月31日（水）まで

※組換えワクチンの1回目は**12月までに**接種してください。



接種できるワクチン

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
自己負担額	通常、約9,000円 3,000円　1回	通常、約22,000円 10,000円　2回 （計　20,000円）

※町県民税非課税世帯・生活保護世帯の人は自己負担金が免除されます。

対象者には5月に個別通知をしています。それ以降に転入された人や通知を紛失された人は大木町役場健康課までご連絡ください。

大木町役場　健康課　　電話／0944-32-1280

帯状疱疹は、痛みを伴う皮膚の病気です

●帯状疱疹は、水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って、痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が現れる皮膚の病気です。

●合併症の一つに、皮膚の症状が治った後にも痛みが残ることがあり、日常生活に支障をきたすことがあります。

帯状疱疹ワクチンは、2種類あります

◎ワクチンの特徴

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
接種方法	皮下に接種	筋肉内に接種
接種回数と間隔	1回	2回（2か月以上の間隔をあける）※
接種条件	病気や治療によって、免疫の低下している人は接種できません	免疫の状態に関わらず接種可能

※病気や治療により免疫の機能が低下した、または低下する可能性がある人などは、医師が早期の接種が必要だと判断した場合、接種間隔を1カ月まで短縮できます。

◎帯状疱疹に対するワクチンの予防効果

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
接種後１年時点	6割程度	9割以上
接種後５年時点	4割程度	9割程度
接種後 10 年時点	ー	7割程度

※帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、 組換えワクチンは9割以上と報告されています。

◎ワクチンの安全性

●ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

●頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
70％ 以上	ー	疼痛*
30% 以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10% 以上	そう痒感*、熱感*、腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
1％ 以上	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛

（*）ワクチンを接種した部位の症状　各社の添付文書より厚生労働省が作成したものを転記

◎他のワクチンとの同時接種について

●帯状疱疹ワクチンは、医師が特に必要と認めた場合に、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチンなどと同時接種が可能です。

●生ワクチンについては、他の生ワクチンとは27日以上の間隔を置いて接種してください。